

傍聴席からひとこと

No. 50



やまがた山縣 りくと 陸人 さん

私は現在、埼玉県に住んでいます。9月までブラジルにあるニッケイ新聞という日本語の新聞社で記者をしていました。今回はブラジル岩手県人会の賛助会員の方の勧めで12月13日の本会議を傍聴しました。

柳沢北浜地区の議論以外にも、町のコミュニケーションセンターの運用や織笠地区の排水路築造などについての報告・質疑が行われました。私はこの土地や復興の進み具合について何か意見できるほどの知識を持ちません。ただ、議員の皆さんが一つ一つの議題をしっかり審議し「町を良くしていく」という姿勢を感じました。傍聴は町政について頭で考えるだけでなく、肌で感じる良い機会だと思えました。

次の定例会は2月12日(火)に開会する予定です。お気軽にお越しください。

みんなの「声」 vol.7



豊間根地区在住の齋藤さん家族
左から
萌(もえ)ちゃん(3歳・次女)
静(しずか)さん
榮(えい)ちゃん(11歳・長女)
魁(らん)くん(8歳・長男)
哲也(てつや)さん

山田に移住したきっかけ

東京で結婚したときからの予定で2年前に山田に移住してきました。

山田町の印象は

夏の海が美しく素晴らしかった。学校と家庭が身近に感じる。地域の方々がとてもフレンドリーで感動している。

どんな子どもに育ってほしいですか

自分の考えや意見を正しく伝えられる人に。

一町に望むことは

英語などにも力を入れ、ほかと格差のない教育であってほしい。町の魅力を大いに発信し、若い人たちが希望を持ち山田に住みたいと思える町になってほしい。

今年の抱負など

正月、家族で静岡の御殿場で富士山を眺め、笑顔の絶えない平穏な1年でありますようにと祈願しました。

あとかき

▼昨年8月下旬に、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイの岩手県人会5カ所を訪問する機会を得ました。南米の皆さまと会話をしたとき、南米の皆さまが約50年前の入植以来、艱難辛苦を乗り越え、現在の地位を得たことに感動と感謝だけではありません。特にパラグアイ県人会の皆さまには、あの震災直後我々が明日に生きる希望をなくしていたとき、友情の豆腐を持参して我々被災者に夢と希望を与えてくれたことに今更ながら感謝申し上げますとともに、震災から生かされた人間は機会あるごとに訪問して復興状況と将来の町の姿を伝えていく使命感があると感じた訪問でした。そして応援が続いている世界の人々との友情をさらにつなげていきたいと感じました。(菊地)

発行責任者

議長 長 毘 暉 雄

議会広報編集特別委員会

委員長 吉川 明子
副委員長 菊地 光典
委員 佐藤 克典
委員 田村 賢也
委員 木村 清貴